

米情報局：「ロシアがやったのではない」

July 24, 2014

By : Paul Craig Roberts (Information Clearing House)

マレーシア旅客機を撃ち落としたのはロシアだと、敵意ある非難を何日も繰り返したあと、ホワイトハウスは情報局に対し、ロシア政府が関わった証拠はないことを、記者団に発表してもよいと許可を出した。

明らかにアメリカの衛星写真は、オバマ政府のウソを支持するものではない。もしホワイトハウスが、ロシアを共犯とする証拠を少しでも持っていたとしたら、何日も前から世界に向かって大宣伝をしていたであろう。

CIA（中央情報局）の解説者的側面が、その黒い工作者的側面に対して、ディック・チェイニーによるこの局のページがあった後も、廉直な解説者を残していたことは、我々にとって幸運だった。ブッシュ政権の戦争のウソに、素直に歩調を合わせない CIA に腹を立てて、チェイニーはこの部局のページを行ったのだった。この局の黒い工作者的側面は全く別物である。多くの人々が、CIA のこの部分はアメリカの成文法を無視して活動しているのだから、予算をなくし廃止すべきだと考えている。

息を呑むのは少し待っていただきたい——ワシントンが黒い工作活動を廃止するか、オバマ政府がロシア政府に対し、自分たちが根拠のない非難とほのめかしをロシアに向けたことを謝罪するまで。

このアメリカ情報部当局による譲歩にもかかわらず、プロパガンディストたちはすでにこの譲歩を覆そうと試みている。情報局の首脳自体は、ロシアはおそらく間接的に責任があるのだ、なぜならキエフが分離主義者たちを攻撃する「条件を作った」のは、ロシアだからだと言っている。

言い換えると、米務省の Victoria Nuland の指揮した、ワシントン製のクーデタは、選挙による民主的なウクライナ政府を倒し、反対するかつてのロシア領を敵視する、過激なロシア嫌い [ポロシェンコ] をキエフの権力の座に据えたが、ワシントンはその結果に責任を取ろうとしない。（このかつてのロシア領は、ロシアとウクライナが同じ国の部分であったときに、ソ連共産党によってウクライナに編入されたものである。）

ワシントンに罪はない、ロシアが悪い——それだけの話だ。

同じ日、先立って、国務省のスポークス・ウーマン **Marie Harf**——オバマ政権の脳なし戦争屋女性の一人——は、ロシア政府の公式の責任否定について質問した記者団に対して怒った。あなた方はわからないのですか、アメリカ政府が言うことは信用でき、ロシア政府の言うことは信用できないということが！

メディアの所有者たちや記者報告の編集者たちが、呼び出され脅迫されたことは、まず確実である。記者たちが自分の仕事をしたために首になったとしても、私は驚かないだろう。

これでおわかりだろう——アメリカの言論の自由というものが。アメリカの言論は政府のためにウソをつくのは自由だ。しかしそれ以外に自由を行使するような不埒なことはできない。

ワシントンは決して、MH17の公的説明を許すことはないだろう。今日（7月23日）BBC（英ブレインウォッシュ協会＝皮肉）は、こう宣言した、「ホワイトホール（英政府）筋によると、MH17の撃墜の証拠が故意にいじられていたことが、この機のブラックボックスが英国へ到着したとき判明した。」

ブラックボックスがいじられていたという、この主張の後で、BBCは自己矛盾を犯した、「調査を主導しているオランダ安全理事会は、MH17のコックピットのボイスレコーダー（CVR）から“確かな証拠”がダウンロードされており、これは“さらに分析”されるだろうと言った。理事会によれば、“CVRは壊れていたが、メモリー・モジュールは無事だった。その上、CVRを操作したという証拠や形跡は見つからなかった”」

BBCは、どうしてブラックボックスが、イギリスとオランダに同時にあるのか、また分離主義者たちがブラックボックスを、国際民間航空組織（ICAO）の手に渡して非政治的専門家の調査に委ねるといふ保証付きで、マレーシア人たちに渡したのに、どうしてそれがイギリス人とオランダ人の手に渡ったのかを説明していない。

ではブラックボックスはどこにあるのか？ もしマレーシア人がそれらをイギリス人に渡したのなら、英政府は、ワシントンが要求するどんなウソでもつくだろう。もしワシントンの英国傀儡が本当にブラックボックスをもっているなら、我々は決して真理を知ることはないだろう。また、買われて支払われたオランダ首相の、ロシアに対する敵意に満ちた根拠のない非難から判断するなら、オランダもまたワシントンのために嘘をつくと考えてよい。

どうやらワシントンは、“調査”をICAOの手からもぎ取って、その傀儡たちに任せることに成功したようだ。

西側のニュース報道に基づいてコラムを書くことの困難は、そのニュース報道が確かかどうか、わからないことである。

どう見てもオバマ政府は、“国際的調査”をロシアの告発へ向けようとしており、オランダは、この腐敗した調査の利用の背後で、これに同調しようとしているようだ。ワシントン・ポスト紙の物語が明らかにしているように、この調査によって、ワシントンとキエフに責任があるという疑いが生ずる可能性はない。(ワシントン・ポスト記事へのリンク)

正直さとロシアに対する善意を欠く、腐敗した西側を、信じ続けることによって、分離主義者とロシア政府は、またしても彼ら自身を悪口の標的にしてしまった。彼らは教訓を学ぶつもりがないのだろうか？

これを書いているとき更に混乱させる話が飛び込んできた。ロイター通信は Alexander Khodakovsky という「強力なウクライナの反逆リーダーが、親ロシア分離主義者たちが、ワシントンの言う MH17 を撃ち落とすのに使われたような対空ミサイルを持っていて、これはロシアから来た可能性がある」と証言している」と伝えた。ロイターは、この分離派司令官は、戦争行為について他の司令官と意見が合わないのだと言っている。

ホダコフスキーは、どの分隊がこのミサイルをもっていたのか、それがどこから発射されたのかは知らないと言っている。彼は正確な、または本当の情報をもっているわけではないと言っている。彼の説は、ウクライナ政府が、分離主義者たちを餌にかけてミサイルを発射させたもので、そのやり方は、あの旅客機が飛んでいたあたりの下の領域に空爆を行い、旅客機の近くに軍用ジェット機を送って、これを軍用航空機らしく見せかけたというものである。ロイターはホダコフスキーの言葉を引用している、「たとえ Buk があったとしても、そしてその Buk が使われたとしても、ウクライナがすべてを仕掛けて、民間航空機を撃ち落とさせるようにしたのです。」

ホダコフスキーの他の司令官たちとのいがみ合いの性質も、彼の動機もわからないので、彼の話をごくまで信じてよいかはわからない。しかし彼の話は確かに、なぜウクライナの航空管制がマレーシアの旅客機を戦闘地域に誘導したのかという、これまで説明されなかった問題を説明する。

この話のセンセーショナルな部分のあと、ロイターは少し引いているように見える。ロイタ

一は、ホダコフスキーが、分離派の動きは異なった指導者によるもので「我々の協力は条件付きだ」と言ったという。ホダコフスキーの話はそこで、分離派たちが作動可能な Buk ミサイルを持っていたのか、いなかったのか曖昧になる。ロイターによれば、ホダコフスキーは、「ウクライナ軍から奪った Buk はどれも使えるものではなかった」と言った。だとすると、もしそれが存在するとしたら、その作動可能なミサイルを送ったのはロシアだということになる。

私は分離派の答えが説得力をもつと思う——もし我々がそんなミサイルをもっていたとしたら、あのキエフのバカ者どもに、我々を空爆なんかさせるものか、また彼らの爆撃があんなにうまくいくのは、なぜなんだ？ 分離派軍は確かに、ソ連に侵略されたアフガニスタンにアメリカが送ったような、肩に担いで発射する地対空ミサイルはもっている。これらのミサイルは低空飛行をする航空機にしか使えない。33,000 フィートも届きはしない。

ロイターによれば、この話の報告はある一人のもの、文章は別の一人、編集はまた別人によるものだという。私のジャーナリストとしての経験から言って、これでは誰の話かもわからず、どの程度話が変わったか、どれくらい信じてよいかもわからない。

安全に結論できることは、情報混乱がいま始まっているということ、そして9・11 やケネディ暗殺事件のように、証拠を調べて自分の見解を形成する人にとって、別の方法はないということである。米政府は決してはっきり言わないであろう。また英政府や既成メディアは、ワシントンのために嘘を言い続けるであろう。

ワシントンの賄賂と脅迫は、ワシントンの望むどんな話でも作り出すことができる。心に留めておいていただきたいことは、腐敗しきったホワイトハウスが、自分自身の情報部の反対を抑えるために、国務長官を国連に送り、ホワイトハウスが存在しないとわかっていたイラクの大量生産兵器について、世界に嘘をついたことである。その結果、何百万という人々が死に、障碍者となり、まさにワシントンの嘘のために、中東の不安が高まり、人々が居場所を追われたのである。

オバマ政府は、ねつ造された“証拠”を根拠にして、アサドが、シリアの人民に対して化学兵器を用いたと嘘をついた。こうして、ホワイトハウス自身が引いた“レッドライン”を越え、シリア人民に対するアメリカの軍事攻撃を正当化した。ロシア政府はこのニセの証拠を暴き、英議会は票決によって、オバマ政府のシリア攻撃には英国は参加しないと決めた。孤立したオバマ政権は、戦争犯罪人という明らかな役割を、あえて引き受けはしなかった。

このように道をふさがれたオバマ政権は、外部のジハーディストの戦闘家を財政支援して

支持し、シリアを攻撃した。その結果、ISIL（イラク・レバント・イスラム国）が、今イラクとシリアの一部から、新しいカリフ主権国を切り取りつつある。

ジョージ・W・ブッシュ体制もオバマ体制も、彼らの歯の間から“イランの核兵器”という嘘をついたことも覚えておいていただきたい。

可能な結論はただ、一貫して嘘をつく政府は信ずることができないということである。

腐敗したクリントン政権以来、アメリカのジャーナリストは、ワシントンのために嘘を書けと社長から強要されている。マリー・ハーフとの会見で、何人かのジャーナリストが少しばかり勇気を見せたのは希望のしるしである。これが根付いて成長することを望みたい。

私はアメリカが、クリントン、ジョージ・W・ブッシュ、そしてオバマの、各政府の政策を決定したネオコン派閥によって加えられた打撃から、回復できるとは思わない。しかし、21世紀の米政府を特徴づける巨大な嘘と騙しに対する反対の兆しを見るたびに、こうした悪に刃向う人々を応援し喝采しなければならないと思う。

我々の未来、そして世界の未来は、そこにかかっている。

（ポール・クレイグ・ロバーツ博士は、Assistant Secretary of the Treasury for Economic Policy を務め、ウォール・ストリート・ジャーナルの共同編集者であった。Business Week, Scripps Howard News Service, Creators Syndicate のコラムニストであり、多くの大学で講義を依頼されている。彼のインターネット・コラムは、世界的に支持者を引き付けている。最近の著書として、*The Failure of Laissez Faire Capitalism and Economic Dissolution of the West* および *How America Was Lost* がある。）